

[成果情報名] ナミハダニの薬剤に対する感受性

[要約] イチゴ、キュウリ、ナスのナミハダニに対して、カネマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル、アフーム乳剤は効果が高い。

[担当] 山梨県総合農業技術センター・環境部・作物病害虫科・村上芳照

[分類] 技術・普及

[課題の要請元]

部門別代表者、J A

[背景・ねらい]

ナミハダニはこれまで多くの薬剤に抵抗性を発達させており、薬剤を効果的に使用するためには、効果を定期的にモニタリングする必要がある。そこで、県内のイチゴ、キュウリ、ナスからナミハダニを採集し薬剤に対する感受性を調査する。

[成果の内容・特徴]

1. イチゴから採集したナミハダニ成虫に対して、カネマイトフロアブル、マイトコーネフロアブルはすべての系統で死虫率が高かった。
2. イチゴから採集したナミハダニ成虫に対して、アフーム乳剤、コロマイト乳剤、スターマイトフロアブルは、一部の系統で死虫率が低下した。
3. キュウリ、ナスから採集したナミハダニ成虫に対して、カネマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル、アグリメック、アフーム乳剤は、すべての系統で死虫率が高かった。
4. キュウリ、ナスから採集したナミハダニ成虫に対して、スターマイトフロアブルは、感受性の低下が懸念される。

[成果の活用上の留意点]

1. ダニコングフロアブルは、イチゴ、キュウリ、ナスの登録はないが、本剤の成分を使用しているダブルフェースを用いる。
2. 効果の高い薬剤においても、連用は避け薬剤の長期的な利用を図る。
3. カネマイトフロアブルは、イチゴでは薬害が発生しやすいので注意が必要である。

[期待される効果]

1. 有効薬剤を効果的に利用することで安定生産が図られる。また、本情報はローテーション散布の資料として活用できる。

[具体的データ]

表1 イチゴのナミハダニ成虫に対する各薬剤の効果（補正死虫率％）

薬剤名	IRAC コード	希釈 倍数	イチゴ					評価 (総合)
			甲斐市	甲府市	韮崎市	都留市	富士川町	
カネマイトフロアブル	20B	1000	100	100	100	100	100	
マイトコーネフロアブル	20D	1000	100	100	100	100	97	
アフーム乳剤	6	2000	100	73	100	73	90	
ダニコングフロアブル*	25B	2000	93	100	97	80	45	
コロマイト乳剤	6	2000	87	100	52	50	100	
スターマイトフロアブル	25A	2000	80	85	93	83	31	
ダニサラバフロアブル	25A	1000	33	87	79	10	24	
コテツフロアブル	13	2000	7	63	24	43	17	
アーデント水和剤	3A	1000	7	43	14	7	41	
ダニトロンフロアブル	21A	1000	3	43	21	23	38	
サンマイトフロアブル	21A	1000	0	0	7	30	34	
ピラニカEW	21A	2000	-	0	3	23	48	
ニッソラン水和剤	10A	2000	-	0	10	13	45	

*ダニコングはイチゴに登録は無いが、同一成分が含まれるダブルフェースを用いる。

表2 キュウリ、ナスのナミハダニ成虫に対する各薬剤の効果（補正死虫率％）

薬剤名	IRAC コード	希釈 倍数	キュウリ		ナス		評価 (総合)
			南アルプ ス市A	南アルプ ス市B	中央市	笛吹市	
カネマイトフロアブル	20B	1000	100	100	100	100	
マイトコーネフロアブル	20D	1000	100	100	100	100	
アグリメックEW	6	1000	100	100	100	97	
アフーム乳剤	6	2000	97	100	100	80	
コロマイト乳剤	6	2000	73	100	100	100	
ダニコングフロアブル*	25B	2000	97	93	100	100	
スターマイトフロアブル	25A	2000	80	70	87	63	
ダニサラバフロアブル	25A	1000	57	13	47	43	
コテツフロアブル	13	2000	63	57	23	33	
アーデント水和剤	3A	1000	37	63	67	40	
ダニトロンフロアブル	21A	1000	23	17	20	37	
サンマイトフロアブル	21A	1000	7	13	13	27	
ピラニカEW	21A	2000	10	57	33	63	
ニッソラン水和剤	10A	2000	-	-	17	-	

*ダニコングはイチゴに登録は無いが、同一成分が含まれるダブルフェースを用いる。

*評価（総合）は、
死虫率平均を以下の
基準で評価した。
：死虫率平均 81%
以上
：死虫率平均 71~
80%
：死虫率平均 70%
以下
*IRAC コード
殺虫剤の有効成分
が害虫のどの部分に
働きかけて防除効果
を發揮するの分類
したもの。

[その他]

研究課題名：作物・野菜・花き病害虫の防除技術の改善
3. 薬剤に対する耐性及び感受性低下害虫のリスク管理

予算区分：県単

研究期間：2014年～

研究担当者：村上芳照、石田久美子